

令和8年度 教育委員会 第9回定例会 議案

1 日 時 令和8年8月5日（水） 午後1時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

（1）開 会

（2）議 案

＜非＞第14号議案	教職員の懲戒処分	…非
＜非＞第15号議案	教職員の懲戒処分	…非
＜非＞第16号議案	教職員の懲戒処分	…非

（3）報告事項

（4）閉 会

第9回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
報告 事項 1	令和8年度全国学力・学習状況調査結果報告	P1
報告 事項 2	北駿地区新構想高校（仮称） 開校に向けたスケジュール	P15
配付 報告 1	静岡県教育委員会公文書管理規程の一部改正	P20

令和8年度全国学力・学習状況調査結果報告

(義務教育課)

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日・実施学校数

(1) 実施日

- ・国語・算数・数学：令和8年4月23日（木）
- ・英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」：令和8年4月20日（月）～23日（木）のうち1日
- ・英語「話すこと」：令和8年4月24日（金）～5月29日（金）のうち1日

(2) 学校数（政令指定都市、特別支援学校含む）

小学校472校、中学校255校

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語・算数・数学、英語（中学校のみ））

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 質問調査

ア 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査。本年度の主な調査項目は以下のとおり。（質問は小学校計73項目、中学校計80項目）

- ・生活習慣、学習習慣、読書等
- ・向社会性、自己有用感・心理的安全性等
- ・主体的・対話的で深い学び、ICTを活用した学習状況
- ・学びの自己調整
- ・教科に関する意識、学習活動
- ・総合、学級活動、道徳

イ 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査。本年度の主な調査項目は以下のとおり。（質問は小学校計85項目、中学校計93項目）

- ・学校運営、教職員の資質向上
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・総合、学級活動、道徳
- ・ICTを活用した学習状況
- ・各教科の指導方法

4 教科に関する調査結果の概要（政令指定都市を含む）

※表の（）内は、小数点以下を県独自に計算

(1) 小学校（教科ごとの平均正答率）

(単位 %)

区分	令和8年度		区分	令和7年度	
	静岡県	全 国		静岡県	全 国
国語	60 (59.6)	60.9	国語	66 (66.0)	66.8
算数	56 (56.1)	56.4	算数	57 (57.1)	58.0

(2) 中学校（教科ごとの平均正答率） ※中学校英語のみ I R T スコア （単位 %）

区分	令和 8 年度		区分	令和 7 年度	
	静岡県	全 国		静岡県	全 国
国語	6 5 (6 4 . 8)	6 3 . 9	国語	5 6 (5 6 . 3)	5 4 . 3
数学	5 8 (5 8 . 5)	5 7 . 0	数学	5 1 (5 1 . 0)	4 8 . 3
英語※	5 1 3 ※	4 9 9	英語		

令和 5 年度英語 静岡県 4 6 . 8 全国 4 5 . 6

※英語は「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の 3 領域の結果が公表された。（「話すこと」は 9 月以降の公表となる。）

※ I R T（項目反応理論）について

児童生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度等）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論である。

I R T スコアは標準化された指標であり、500 を基準として設定されているが、実際の平均スコアは試験や年度によって変動することがある。

5 調査結果の速報分析

(1) 教科に関する調査

- ・小学校は国語、算数ともに全国の平均正答率を下回りました（国語は 1.3 ポイント、算数は 0.3 ポイント）。中学校は国語、数学、英語ともに全国の平均正答率（英語は I R T スコア）を上回りました（国語は 0.9 ポイント、数学は 1.5 ポイント、英語は 14）。中学校は調査開始以来、全国の平均正答率を上回る結果となっています。今後は、調査結果や児童生徒の解答状況を分析するとともに、公開された調査問題から学習指導要領で育成を目指す資質・能力や望ましい授業の在り方を捉え、授業改善や学習指導の充実に生かします。

(2) 質問調査

- ・自己有用感に関する項目では、小学校、中学校ともに、ここ数年にわたり全国平均を上回る傾向が見られます。日頃から児童生徒一人一人を大切にしたい学校づくりや学級づくりが、その背景にあるものと考えられます。
- ・I C T の活用に関する項目では、全国平均を大きく上回りました。ここ数年、全国平均を上回る状況が続いており、児童生徒質問調査と学校質問調査の双方から、I C T を活用した授業づくりが着実に進められていることが伺えます。
- ・主体的・対話的で深い学びに関する項目では、児童生徒質問調査において全国平均を下回る項目が多く見られました。一方、学校質問調査では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいる学校が多いことが分かりました。今後は、教員による授業改善の取組が児童生徒の学びの実感につながるよう、学習のねらいを明確にし、児童生徒が自らの考えの変容や深まりを実感できる授業づくりを進めていく必要があります。
- ・教科に関する項目では、「算数〔数学〕の勉強が好き」と回答した割合が昨年度より高くなり、全国平均を上回りました。一方、「国語の勉強が好き」「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した割合は昨年度より低く、小学校では全国平均を下回りました。児童生徒が学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感できる授業づくりを一層推進していく必要があります。

※詳細は「令和 8 年度全国学力・学習状況調査速報分析」（P 3 ～14）を参照

「令和8年度全国学力・学習状況調査結果速報分析」

教科に関する調査の結果

小学校

R 8 平均正答率(%)			
	静岡県	全国	差
国語	59.6	60.9	-1.3
算数	56.1	56.4	-0.3

【国語】

分類		区分	対象 問題数	R 8 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	65.0	66.8	-1.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	50.4	52.3	-1.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.8	65.8	-1.0
		B 書くこと	2	46.5	45.7	0.8
		C 読むこと	2	63.0	65.9	-2.9
評価の観点	知識・技能		6	60.2	62.0	-1.8
	思考・判断・表現		7	59.1	60.1	-1.0
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		9	60.9	61.9	-1.0
	短答式		2	59.6	62.6	-3.0
	記述式		2	53.3	54.9	-1.6

【算数】

分類	区分	対象 問題数	R 8 平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	60.5	61.1	-0.6
	B 図形	4	55.2	55.3	-0.1
	C 測定	1	77.8	78.1	-0.9
	C 変化と関係	3	40.7	41.1	-0.4
	D データの活用	4	47.7	48.6	-0.9
評価の観点	知識・技能	12	59.2	60.1	-0.9
	思考・判断・表現	4	46.4	45.4	1.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	55.4	56.0	-0.6
	短答式	8	59.0	59.7	-0.7
	記述式	3	48.9	48.5	0.4

※「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しないところがある。

中学校

	R 8 平均正答率(%)		
	静岡県	全国	差
国語	64.8	63.9	0.9
数学	58.5	57.0	1.5
英語	51.3	49.9	1.4

※英語は I R T スコア

【国語】

分類		区分	対象 問題数	R 8 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	63.4	63.0	0.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	71.7	70.4	1.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.1	63.9	1.2
		B 書くこと	3	68.4	67.4	1.0
		C 読むこと	3	60.8	59.7	1.1
評価の観点	知識・技能		6	64.8	64.2	0.6
	思考・判断・表現		9	64.8	63.7	1.1
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		9	73.4	72.7	0.7
	短答式		3	56.7	55.8	0.9
	記述式		3	46.9	45.5	1.4

【数学】

分類	区分	対象 問題数	R 8 平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と式	5	68.5	67.8	0.7
	B 図形	4	52.1	48.7	3.4
	C 関数	3	54.6	54.8	-0.2
	D データの活用	4	55.3	53.5	1.8
評価の観点	知識・技能	12	64.3	63.0	1.3
	思考・判断・表現	4	41.0	39.1	1.9
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	61.6	59.3	2.3
	短答式	9	65.2	64.2	1.0
	記述式	4	41.0	39.1	1.9

【英語】公開問題のみの結果について、平均正答率で表している。

分類	区分	対象 問題数	R 8 平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	(1)聞くこと	5	62.6	60.7	1.9
	(2)読むこと	5	61.3	58.9	2.4
	(3)話すこと[やり取り]				
	(4)話すこと[発表]				
	(5)書くこと	6	50.0	44.8	5.2
評価の観点	知識・技能	4	63.6	59.8	3.8
	思考・判断・表現	12	52.9	49.8	3.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	10	62.0	59.8	2.2
	短答式/口述式	2	61.8	55.8	6.0
	記述式/口述式	4	38.2	33.8	4.4

6 今後の取組

- ・令和 8 年度静岡県全国学力・学習状況調査分析会において、学力と学習状況の関連についてクロス集計等を用いた多角的な分析を行うとともに、公開された調査問題が示す授業改善の方向性も踏まえ、授業改善方策を検討する。
- ・分析結果や成果・課題、今後の対応について、令和 8 年度第 2 回学力向上連絡協議会（令和 8 年 9 月 24 日）において県及び市町で共有し、授業改善や教育施策の充実につなげる。
- ・分析結果や授業改善方策を基に、指導訪問や各種研修会を通して、教育事務所及び総合教育センターの指導主事が学校及び教職員への支援を行う。

7 参考資料（質問調査に関する調査結果の概要）

(1) 児童生徒に対する調査 主な結果 ※[]内は中学校の質問

(単位 %)

調査項目	質問項目	小学6年生			中学校3年生		
		静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
自己有用感	8 自分には、よいところがあると思いますか	87.0	-0.9	1.4	84.9	-2.3	0.9
	9 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.5	-0.6	1.1	91.8	-1.7	0.9
学習習慣	23 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）[1時間以上]	51.1	-4.8	1.2	63.0	-0.1	1.4
	25 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか[1時間以上]	35.5	-9.2	-3.5	52.0	-7.8	-0.5
ICTを活用した学習状況	35 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか[週3回以上]	74.8	-3.6	6.0	84.5	-0.9	6.3
	36 (3) あなたは自分がP C・タブレットなどのI C T機器を使って情報を整理する。(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか	71.6	1.6	2.1	72.1	6.7	2.7
	(4) あなたは自分がP C・タブレットなどのI C T機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか	78.2	-1.4	3.6	84.3	2.2	4.3
主体的・対話的で深い学び	38 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	60.9	-1.0	-5.5	58.7	3.3	-6.8
	39 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.7	-1.5	1.1	80.5	1.8	1.7
	43 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	77.9	-0.7	-0.5	78.7	6.2	-0.3
教科	53 国語の勉強は好きですか	55.9	-0.7	-1.5	57.5	-2.0	0.3
	54 国語の授業の内容はよく分かりますか	80.1	-1.3	-1.4	76.7	-2.0	-0.1
	61 算数[数学]の勉強は好きですか	59.7	0.2	2.1	58.6	1.8	2.5
	62 算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか	77.7	-0.4	0.2	72.9	3.9	-1.3

(2) 学校に対する調査 主な結果 ※[]内は中学校の質問

(単位 %)

調査項目	質問項目	小学校			中学校		
		静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
学校運営	17 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	99.4	0.5	2.1	97.5	-1.3	1.6
	18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	99.1	1.4	1.3	96.3	1.4	2.6
	76[84] 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	74.1	2.4	7.1	77.7	1.8	5.7
	79[87] コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	95.8	-0.6	6.7	91.4	-3.1	7.0
主体的・対話的で深い学び	26 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	87.5	-1.6	-0.6	87.3	-2.2	0.1
	27 調査対象学年の児童[生徒]は、授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	74.3	-3.9	-4.6	79.8	-4.3	-1.6
	29 調査対象学年の児童[生徒]は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	93.2	-2.2	±0.0	95.4	-1.9	0.5
	30 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	67.1	-1.0	2.7	51.9	-2.5	-4.8
	32 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、学習指導において、児童[生徒]が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	95.8	0.4	0.6	95.9	1.0	1.3
I C T	60[68] 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか[週3回以上]	96.7	-0.8	1.3	96.7	-1.8	3.1
家庭学習	81[89] 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに家庭学習の取組として、学校では、児童[生徒]に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	98.9	2.2	2.3	94.7	2.5	3.5
	82[90] 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、家庭学習について、児童[生徒]が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	93.0	2.0	1.9	85.2	0.8	0.2

各教科の成果と課題

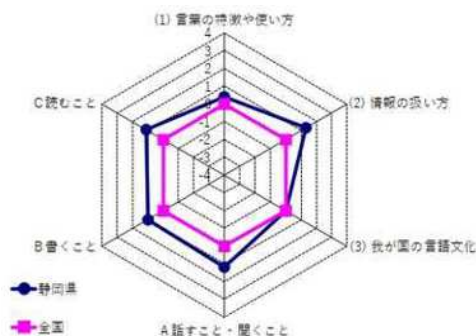
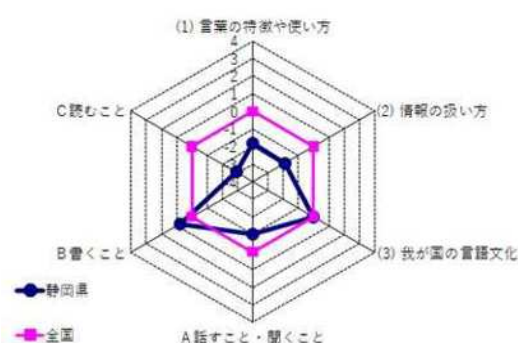
【国語】

- 小学校では、学習指導要領の内容のうち、「書くこと」の区分においては、全国の平均正答率を上回ったが、それ以外の区分においては、全国の平均正答率を下回っている。
- 中学校では、「読むこと」の区分以外において全国の平均正答率を上回っており、分析をもとに目指す資質・能力の育成を今後も継続的に行っていきたい。
- 小学校では、「読むこと」において、目的に応じて、必要な情報を見付けることに課題がある。必要な情報を見付けるためには、目的に応じて情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが必要になる。
- 中学校では、「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。「考えの形成」においては、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことについて、自分の体験や既存の知識または理解した内容と結び付けるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えたのかを振り返ることが大切である。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）>

【小学校】全 13 問

【中学校】全 15 問



◆課題となる問題

	問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		静岡県	全国		
小学校	2 二 [2]	47.0	48.9	【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる
	2 三イ [1]	40.6	45.2	【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
	3 三(1) [C]	53.4	55.5	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる
中学校	4 二 [1]	36.4	35.2	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる
	4 四 [C]	40.3	38.9	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる

特に課題が見られた問題

【小学校国語】

問題番号 3三(1)

3

三 林さんは、「文章」を読んで、自分の考えをまとめるために、同じ文章を読んだ小川さんと話し合うことにしました。次の「話し合いの様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の間に答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

林さん



私は「苦手」と「嫌い」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の()——部アを示しながら、この部分が特に考えさせられたんだ。

小川さん



どんなことを考えたの。

林さん



この部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると、

ということがあるよ。

小川さん



なるほど。文章と自分の経験を結び付けて考えたんだね。

林さん



そうなんだ。この文章を読んで、これまでの自分にはない考えだったけれど、なるほどと思ったよ。小川さんは、どんなことを考えたの。

小川さん



ぼくは、この文章を読んで、筆者が書いていることと少しちがうことを考えたんだ。「苦手だからどうしても嫌い」ということもあるだろうし、「得意だけど嫌い」ということもあるんじゃないかなと思うんだけど、どう思う。

→(話し合いが続く)→

(1)

「話し合いの様子の一部」の に入る内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 持久走のタイムは速いけれど、苦しいのは嫌いだ。
- 2 スピーチが苦手だし、好きになれそうにもない。
- 3 上手ではないけれど、絵をかくのは楽しい。
- 4 歌うことが大好きで、人前で歌うのも気持ちがいい。

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉



〈例文1〉(擬態語を使っていない例文)

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉(擬態語を使った例文)

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきつぱりと言った。

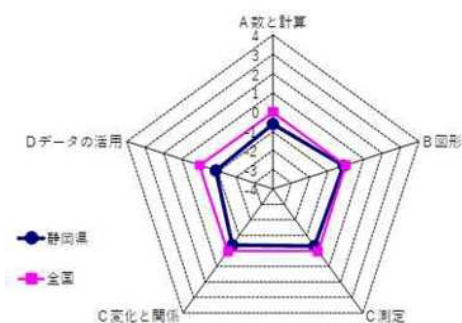
条件1 〈例文2〉の擬態語「きつぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

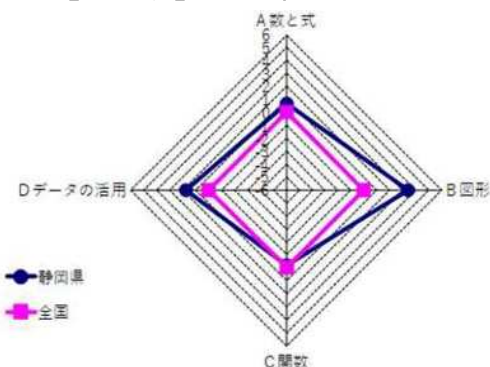
- 小学校算数では、全ての区分において、全国の平均正答率を下回った。
- 中学校数学では、「C関数」の区分以外において全国の平均正答率を上回っており、分析をもとに目指す資質・能力の育成を今後も継続的に行っていきたい。
- 小学校では、「Dデータの活用」の領域において、データを二つの観点から分類整理することに課題がある。日常生活の事象において、目的に応じて必要なデータを収集し、表やグラフに表し、それらを用いて問題を解決したり、データが示す意味を正確に読み取り、特徴を捉えたりすることが重要である。
- 中学校では、「C関数」の領域において、数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。日常生活や社会の事象を考察する場面では、事象を理想化したり、単純化したりすることによって、ともなう変わる二つの数量の関係を既習の関数とみなし、問題解決を図ることがある。その際、解決までの道筋を理論的に考察し、式や表、グラフ等を用いて数学的に説明することが大切である。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）>

【小学校】全 16 問



【中学校】全 16 問



◆課題となる問題

	問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		静岡県	全 国		
小学校	2 (3) [C]	38.8	36.1	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる
	2 (4) [A・C]	31.2	34.2	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる
	4 (3) [D]	16.7	17.9	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる
中学校	7 (2) [C]	34.4	33.9	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

特に課題が見られた問題

【小学校算数】

問題番号 4 (3)

- 4 6年生のさくらさんたちは、1年生と仲良くなるために交流会を計画しています。交流会では6年生と1年生がいっしょに、ボール遊び、おにごっこ、昔遊びをします。

- (3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する1年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 (人)				
		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する1年生にひもをわたします。

わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は 人です。

前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は 人です。

上の㊦、㊩に入る数を、それぞれ書きましょう。

【中学校数学】

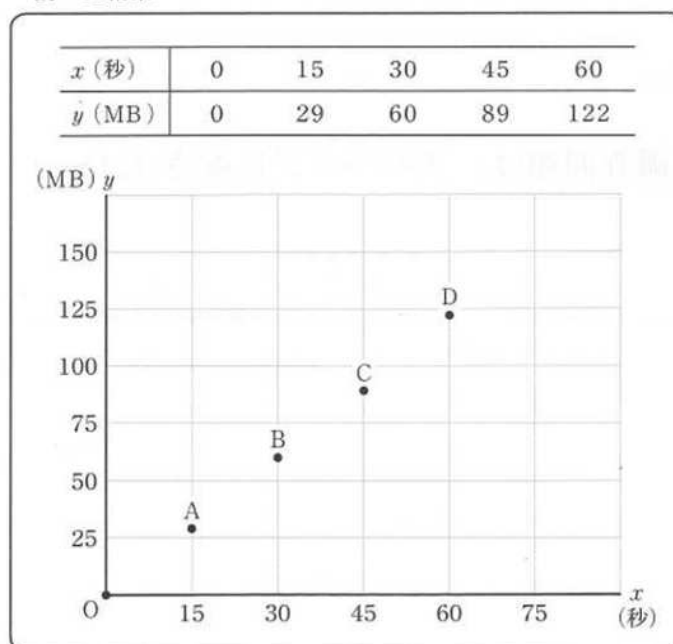
問題番号 7 (2)

- 7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000 MB^{メガバイト}までにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が x 秒のときのデータ量を y MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。

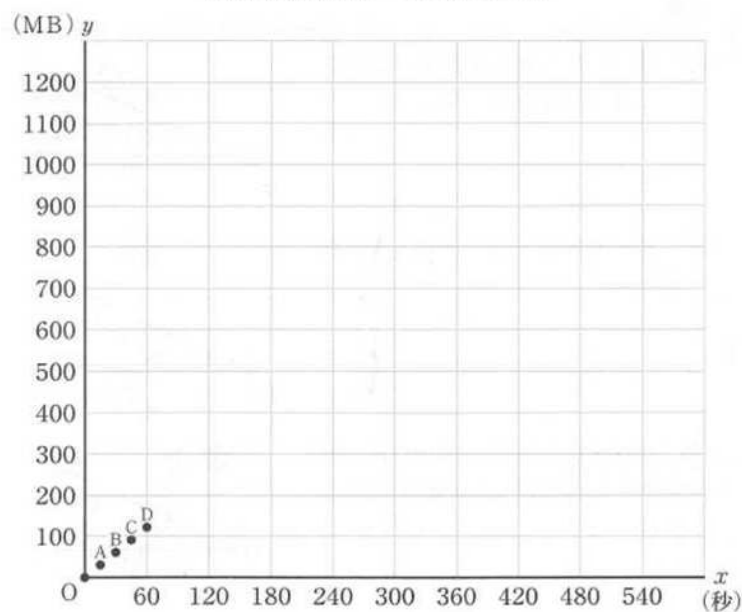


調べた結果



- (2) 光希さんは、1000 MB のデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

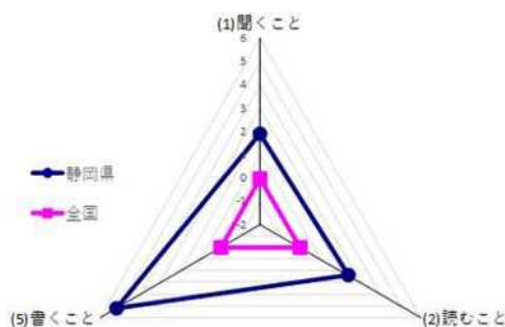
このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

【英語】「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域のみ

- 中学校英語では、全ての領域で全国平均正答率を上回っており、分析をもとに目指す資質・能力の育成を今後も継続的に行っていきたい。
- 中学校英語では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題が見られた。「導入―本論―結論」や「主張―根拠・具体例―主張の言い換えや要約」などの文章構成の特徴を意識し、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする際には、読み手により分かりやすく伝わるよう、自分が伝えたい内容に最も適した表現を工夫して書くことも必要である。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）＞

【中学校】全 16 問（公開問題のみ）



◆課題となる問題

	問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		静岡県	全 国		
中 学 校	10 (2) [5]	30.7	27.8	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる
	14 [5]	24.4	29.9	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

特に課題が見られた問題

【中学校英語】

問題番号 14

14

あなたは、新しく来た留学生に学校生活に慣れてもらうために、学校紹介の冊子を渡すことにしました。「学校で普段行うことを1つ取り上げ」、「それについての説明」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、下の【例】を参考にしてもかまいません。

Our School Life



※ここには、学校生活の様子
についての写真が入ります。

【例】

- ・朝の読書活動
- ・授業
- ・給食
- ・清掃
- ・その他

<解答欄> ※半角で入力してください

0 / 最大999 単語

令和 8 年 8 月 5 日

北駿地区新構想高校（仮称） 開校に向けたスケジュールについて

（高校教育課）

1 概要

北駿地区グランドデザイン（令和 7 年 4 月完成）の具現化に向けて、現在の御殿場高校、御殿場南高校、裾野高校の 3 校を統合し「北駿地区新構想高等学校（仮称）」として再編する。

同校の開校に向けたスケジュールについて、以下のとおり決定する。

2 開校スケジュール

項 目	内 容
開校時期	令和 13 年 4 月
開校場所	現御殿場高校 →新校舎が完成次第移転 (校地：御殿場南高校の敷地、時期：令和 13 年度中を予定)
仮移転の時期	令和 10 年 4 月

©令和7年4月の地域協議会で完成した「北駿地区グランドデザイン」に基づく県立高校再編です。

**令和13年
(2031年)
4月開校**

北駿地区高校再編計画



令和8年8月

北駿地区新構想高等学校設置準備委員会

※この概要は令和8年8月時点での計画であり、変更になる可能性もあります。

1. 北駿地区新構想高校（仮称）

※校名は令和11年度に決定予定



教育
目標

地域への愛着を育むとともに、単位制ならではの豊富な学びや活動、交流の機会により、生徒のニーズを大切にしたい新しい時代の学びを推進し、地域の未来を創造する人材を育成する



設置
場所

御殿場南高校敷地



募集
規模

普通科 5～6 クラス （1 学年240人～280人）
工業科 1 クラス



特色①生徒ひとりひとりに応じた多様な学び(単位制)

難関国公立大学の受験から就職まで、1学年280人で280通りの学びを実現します。

学びのイメージ図



※1年次は必修科目(必ず学ばなければならない教科・科目)を中心に学習し、
2年次、3年次には、自分の学びたい科目で自分だけの時間割を作成します。



特色② 魅力ある施設設備(校舎新築)

- 多様な学びを実現するクリエイティブな空間
- 授業以外でも落ち着いて学習に取り組める自習空間
- ひとりでも大人数でも居心地の良い空間



教育内容の特色

- 共通テストや一般試験を見据えた手厚い指導で難関国公立大学合格へ
- 体験重視の教育で、総合型選抜や指定校推薦を強力サポート
- 御殿場市、裾野市、小山町の自治体や企業等と連携し、希望に添った就職支援
- 自分の選んだ部活動で、最高の仲間と、最高の瞬間を

2. 新しい小山高校



全日制 **2** クラス (1 学年 80 人)
定時制 **1** クラス



教育内容の特色

- 小山町との連携により、町内の企業等をフィールドに



**「本物」に触れる
リアルな
探究活動**



探究に重点を置いた新たな学科も検討中

- 小規模校の利点をいかして生徒ひとりひとりの顔が見える丁寧な教育
→それぞれの進路実現を強力にサポート
- 全日制・定時制・御殿場特別支援学校小山分校とが連携した教育の充実

【北駿地区新構想高校(仮称)】今後の中学生および小学生への影響

- 令和11年度、12年度に御殿場高校、御殿場南高校に入学した生徒は、「新構想高校卒業」となります。なお、学習内容は、入学した学校のカリキュラムとなります。
- 令和11年度から、裾野高校は募集を停止します。

今後の中学生・小学生への影響

		入学する高校			
現在の学年 (令和8年度)	高校入学年	御殿場高校	御殿場南高校	裾野高校	御南高 敷地
高2	令和 7 年				解体 工事 ↓ 新校舎 建設 ↓ 新校舎 完成
高1	令和 8 年		3年生の4月から 御殿場高校へ引越し		
中3	令和 9 年		2年生の4月から 御殿場高校へ引越し	3年生から下級生は 入学しない	
中2	令和 10 年		御殿場南高に入学 学ぶ場所は御殿場高	2年生から下級生は 入学しない	
中1	令和 11 年	3年生に新構想 高校へ引越し	2年生まで御殿場高 3年生に新構想高校 へ引越し	募集停止	
小6	令和 12 年	2年生に新構想 高校へ引越し	1年生まで御殿場高 2年生に新構想高校 へ引越し	募集停止	
小5	令和 13 年	4月 新構想高校開校 ●新校舎完成までは御殿場高校 ●新校舎完成後、引越し			

- 令和10年4月から令和13年の校舎完成までは、御殿場南高校は御殿場高校の校舎へ仮移転(引越)し教育活動を行います。
※令和9年度以降の入学生は、仮移転中、通学経路の変更によって生じる通学費(バス代等)は自己負担となります。



静岡県教育委員会公文書管理規程の一部改正について

(教育総務課)

専決処理により、静岡県教育委員会公文書管理規程（以下「規程」という。）の一部改正を行った。

1 趣旨

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（以下「番号法」という。）の改正に伴い、番号法を引用する規程について、所要の改正を行う。

2 番号法の改正内容

カード代替電磁的記録の定義に関する条項が第 2 条第 8 項に挿入されたため、特定個人情報が定義された第 8 項が第 9 項となった。

3 本規程の改正内容

番号法の改正に伴い、引用条項を修正した。

改正前	改正後
(事務担当者の收受手続) 第18条 (略) 2～9 (略) 10 電子文書に行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号） <u>第 2 条第 8 項</u> に規定する特定個人情報が含まれている場合は、文書管理データベースに当該電子文書を添付してはならない。 11 (略)	(事務担当者の收受手続) 第18条 (略) 2～9 (略) 10 電子文書に行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号） <u>第 2 条第 9 項</u> に規定する特定個人情報が含まれている場合は、文書管理データベースに当該電子文書を添付してはならない。 11 (略)

4 専決処分とする理由

本改正は、番号法の改正に基づく条項の修正であり個別の検討を要しない。
よって、静岡県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則第 4 条第 1 項第 1 号に規定する「教育委員会規則の軽易な改正」に該当することから、専決処理により規則改正を行った。

5 施行期日

令和 8 年 8 月 7 日